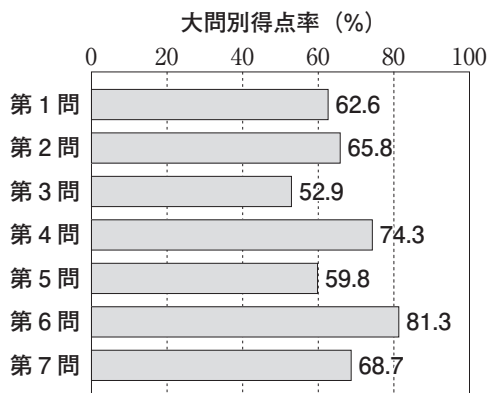
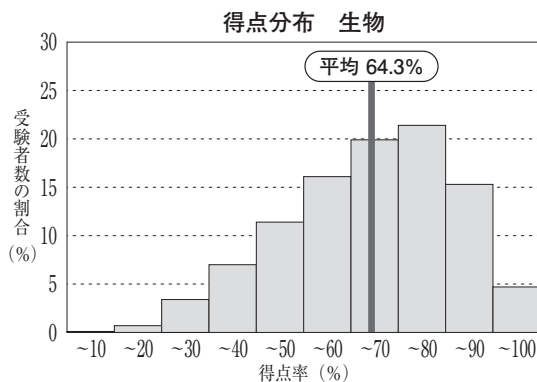


生 物

教科書の知識を確実に定着させよう。

I. 全体講評

最終 12月センター試験本番レベル模試生物の平均点は 64.3 点だった。大問数やマーク数、難易度、大問ごとの出題分野はセンター試験に準じた形をとり、第 1 問は生命現象と物質、第 2 問は生殖と発生、第 3 問は生物の環境応答、第 4 問は生態と環境、第 5 問は生物の進化と系統とした。分野に偏りがないよう、教科書全体からまんべんなく出題している。また、第 6 問と第 7 問は生物の範囲から選択問題として出題した。今回の模試で平均に届かなかった大問、また他と比べて得点率の低い大問に重点をおいて、しっかりと復習をしておこう。



II. 大問別分析

今回出題した選択問題では、第 7 問より第 6 問の得点率が高かった。どちらの問題を選択するかも重要になるので、苦手分野をなくしておこう。

第 1 問 生命現象と物質

遺伝子の発現調節に関する知識を整理しておこう。

A は遺伝子の発現調節に関する問題で、問 1 はよく出来ていた。B は呼吸・発酵に関するグラフの読み取り問題だった。

呼吸など代謝の分野は覚えることが多いので、知識に抜けがないか確認しておこう。また、遺伝子の発現調節については、真核生物と原核生物それぞれについて理解しておこう。

第 2 問 生殖と発生

動物の発生に関する知識を整理しておこう。

A はウニの発生に関する問題で、問 1~3 はいずれも基本的な知識問題であった。B はショウジョウバエの生殖細胞に関する問題であった。

今回出題したショウジョウバエの生殖細胞に関する実験の内容は難しくないので、正しく内容を整理出来たか確認しておこう。

第 3 問 生物の環境応答

生物名を覚えているか確認しよう。

A は筋肉に関する問題で、問 1・2 は基本的な知識問題であった。B は光周性に関する問題で、与えられたグラフの内容を整理すれば解答できる。

短日植物や長日植物などの代表的な生物名を覚えているか確認しておこう。

第 4 問 生物と環境

生態系における物質収支について理解しよう。

A はすみわけに関する問題で、問 1~問 3 の正答率はそれぞれ 86.9%、56.7%、85.5% であった。B

は物質収支に関する問題で、教科書にのっている基本的な内容であった。

生産者と消費者の物質収支の関係式を覚えているか確認しておこう。

第5問 生物の進化と系統

コケ・シダ・種子植物の特徴を覚えておこう。

Aは植物の分類に関する問題で、植物の特徴や植物界に属する生物の名称を問う問題であった。Bは進化のしくみに関する問題で、問4の正答率は35.6%であった。

学習が遅れがちな分野なので、教科書を読み、細かい知識についても確認しておこう。

第6問 性決定

表の内容を整理できたか確認しよう。

問2・3は問題文と表の内容を整理すれば解答できる問題であった。問3の正答率は70.9%でよく出来ていた。

第7問 体色変化

タンパク質に関する知識を整理しておこう。

体色変化に関する問題で、問1・問2の正答率はそれぞれ59.1%、65.8%・76.4%であった。教科書にのっているタンパク質の名称とそのはたらきについて整理しておこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆教科書の知識に抜けがないか確認しよう。

センター試験では、教科書の全範囲からまんべんなく出題され、基本的な知識問題だけでなく、実験考察問題や計算問題などが出題されることもある。これらは、単なる知識の暗記だけでは対応できない。しかし、知識問題は暗記が重要となるため、教科書の用語やグラフなど基本的な内容をしっかりと理解し、正確な知識を身につけているか確認しよう。今回の結果を受けて、知識が身につけていない分野については、教科書などで確認しておこう。

◆模試を活用しよう。

センター試験の形式や文章表現に十分慣れ、出題傾向やレベルをつかんでおくことは重要である。そ

のため、できるだけたくさん問題に取り組んでおくことが得点力のアップにつながる。ぜひ、今まで受験した模試や過去問の復習をしておこう。